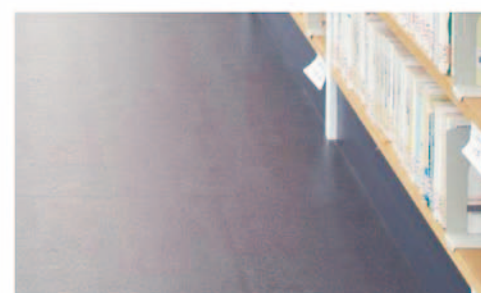


# CHIBA UNIVERSITY

## FINANCIAL REPORT 2015



平成26事業年度 財務レポート

平成26年4月1日～平成27年3月31日



## VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021

VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021 .....	1
<b>01 最新のトピックス</b>	
国際教養学部設置計画 .....	3
<b>02 研究成果の実用化</b>	
株式会社アミンファーマ研究所 .....	7
株式会社サーマス .....	8
株式会社SISM .....	9
日本イリセン株式会社 .....	10
<b>03 千葉大学SEEDS基金</b>	
千葉大学SEEDS基金 .....	11
<b>04 附属病院について</b>	
医学部附属病院 .....	13
<b>05 学外から利用できる機器の紹介</b>	
共用機器センター .....	15
■ ファイナンシャルハイライト（平成26事業年度） .....	18
<b>06 平成26事業年度決算のポイント</b>	
貸借対照表の概要 .....	19
損益計算書の概要 .....	21
財務諸表等の計数推移 .....	23

## 千葉大学憲章

## 千葉大学の理念

## つねに、より高きものをめざして

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

## 千葉大学の目標

私たち役員と教職員は、上記の理念のもと、自由・自立の精神を堅持して、地球規模的な視点から常に社会とかがわりあいを持ち、普遍的な教養（真善美）、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献します。

1. 私たちは、学生が個々の能力を発揮して「学ぶ喜び」を見いだし、鋭い知性と豊かな人間性を育てていく自律成長を支援するために、最高の教育プログラムと環境を提供します。千葉大学は、学生と私たちがともに学ぶ喜びを生きがいと感じ、ともに成長していく知的共同体です。
2. 私たちは、学生とともに、社会で生じるさまざまな問題の本質を、事実を踏まえて深く考察し、公正かつ誠実な問題解決に資する成果を速やかに提供して、社会と文化ならびに科学と技術の発展に貢献します。
3. 私たちは、総合大学としての多様性と学際性を生かし、国内外の地域社会・民間・行政・教育研究諸機関と連携して、領域横断的研究と社会貢献を積極的に推進します。
4. 私たちは、各人の個性・能力・意欲および自主性が継続的に最大限発揮され、意欲ある人材が積極的に登用される仕組みと環境を構築し、時代の変化に応じて柔軟に大学を経営します。

2005年10月11日制定

「国際」+「日本」+「科学」

||

# 国際教養学部

COLLEGE OF  
LIBERAL ARTS AND SCIENCES

2016.04.01 START

平成28年4月1日開始



## New Age of Discovery

新たな大航海時代に向かって

既存の価値観にとらわれず自由に、  
主体的に。広い世界と未来に役立つ、  
新たな価値を創造する。

世界の課題を日本の力で解決する。文系や理系、今までの学問分野を飛び越えて、もっともっと広い世界を見ながら、わくわくするような未来を創る——

千葉大学は総合大学としての長い歴史を生きながら、世界が抱える課題を日本独自の視点で解決する学問の開拓に挑みます。

国際教養学部では、日本の力を新たな価値あるものとして世界に発信し続けることのできるグローバル人材を育成します。

既存の価値観にとらわれず自由に、そして主体的に物事に取り組む「個」の力を育てることが、世界に求められた使命であると千葉大学は考えます。

「国際」+「日本」+「科学」  
文理混合による新たな学問の  
大海原への挑戦。

現代社会が直面する複雑な問題に対応するには、俯瞰的な視野を持ち、さまざまな学問分野を横断しながら幅広い知識やアイデアを駆使して解決していく必要があります。

文系と理系が一緒になった国際教養学部では、「国際」+「日本」+「科学」をバランスよく混合(ブレンド)することで、グローバル 이슈(世界が抱える課題)について、日本の文化・技術を用いて独自の視点から解決する能力を身につけていきます。





## 世界に輝く未来志向型の 総合大学へ！

平成16年度の国立大学法人化以降、千葉大学では「つねに、より高きものをめざして」を基本理念に掲げ、教養（普遍）教育の充実と教育活動の国際化を積極的に進めるとともに、学問の多様性を尊重しつつ、世界レベルの基礎研究や応用研究を強力に推進するなど、世界を先導する創造的な教育・研究活動の実践を通して、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指し、たゆみない挑戦を続けてまいりました。

平成28年度からの第3期中期目標期間を迎えるに当たっては、国内外の急激な社会変化により人類が直面する様々な課題を的確に捉えるとともに、これまでの取り組みから得られた本学の強みや特色、可能性を十分に見極め、本学が有する卓越した研究力と質の高い教育力を、それら課題の解決に向けて効果的に発揮することにより、本学が「世界最高水準の教育研究機能を有する総合大学」としてさらなる発展を遂げていくため、この期間における本学のビジョンを策定いたしました。

千葉大学においては、強みとなる独創的な研究分野への戦略的支援や、次世代型イノベーションの創出、自立した個人として、自主的に学び、グローバル社会の中心となって活躍できる次世代型人材の育成などにより、全学の教職員が一丸となって本ビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。

国立大学法人千葉大学 学長

徳久剛史

# Global

## 国際社会で活躍できる次世代型人材の育成

- 国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成
- 「グローバル千葉大学の新生」（スーパーグローバル大学等事業）の着実な実施
- 国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成

# Research

## 研究三峰（トリプル ピーク チャレンジ）の推進

- グローバルプロミネント研究基幹の創設による独創的な次世代研究への戦略的支援
- 亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成
- 文理の枠を超えた融合型研究の推進

# Innovation

## 次世代を担うイノベーションの創出

- イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化
- 研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用
- イノベーション創出人材の育成と組織改革

# Branding

## 千葉大学ブランディングの強化

- 卓越した教育・研究力による国際的な信頼の向上
- 戦略的広報活動の推進
- 卒業生・企業・社会等との連携強化

# Synergy

## 教職員による協働体制の強化

- 戦略的な大学運営に向けたガバナンス機能の強化
- 多様な人材（ダイバーシティ）の活用による教育研究活動の活性化
- リスクマネジメントシステムの充実

# 01

最新のトピックス

## 国際教養学部設置計画

千葉大学では、平成 28 年 4 月に国際教養学部を設置します。

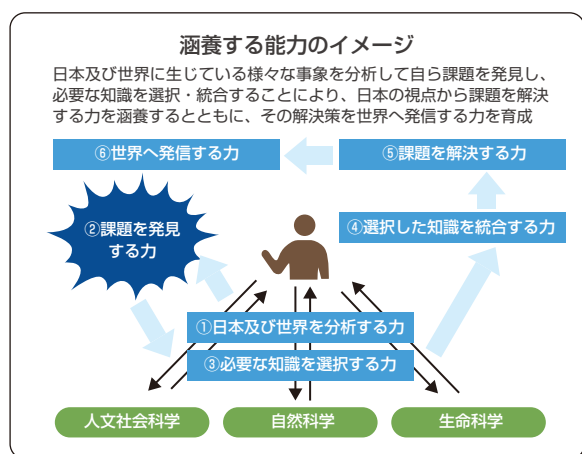
### 国際教養学部の概要

国際教養学科[1学部1学科] 定員/1学年90名 専任教員/46名

# Outline

#### 国際教養学部の養成する人材像

私たちの社会が持続的に発展するためには、環境問題や人間の安全保障など既存の学問分野単独では解決困難な課題と向き合っていかなければなりません。また、わが国の経済が停滞する中、世界最先端の科学技術や独自の文化を有するわが国の魅力が広く世界に認知されることは、ビジネスチャンスの増大等をもたらし、日本の経済発展、ひいては世界の発展に貢献するものであり、これを実現する人材が求められています。このような社会的要請に応えるため、国際教養学部は、「グローバル・日本・ローカル」という複合的視点から国際理解と日本理解の双方を備えた上で、俯瞰的視野、多角的な視点で物事を考え、日本独自の視点から課題を発見・解決し、その解決策を世界へ発信することができるグローバル人材の養成を目指しています。

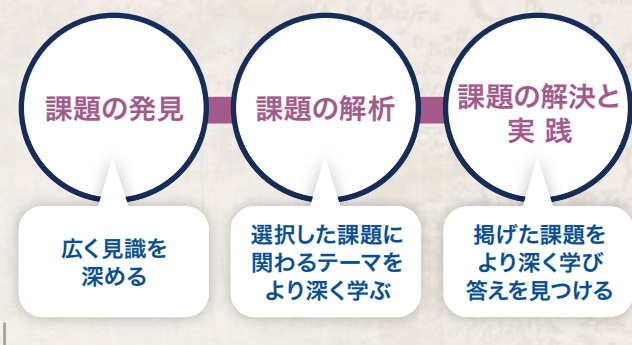


#### 特色1 文理混合による課題解決型教育

従来の国際教養教育は文系が主流でしたが、現代社会の複雑な課題の解決には科学的な視点が欠かせません。そこで、千葉大学の国際教養学部では、文理混合教育を実践します。これは、人文社会科学、自然科学、生命科学をカバーする総合大学である千葉大学だからこその強みと言えます。また、課題解決型教育として、従来からの発想を転換し、最初から決められた学問分野を出発点とするのではなく、課題認識からスタートし、その解決のための知識を選択・統合し、解決能力を育む教育を実践します。

#### 特色2 テーラーメイド教育とSULAによる学修支援

国際教養学部では、学問分野の境界を越えた知識や手法で国際社会に生起する課題の解決を目指します。学生はひとりひとりが設定した課題に応じて、その解決に必要な科目をジャンルを問わず履修します。どのような科目を履修するか、課題解決に必要な活動体験や海外留学をいつどのように行うか、教員やSULA (Super University Learning Administrator) と呼ばれる学修支援スタッフが相談にのりながら、学生個々のニーズに合わせて「テーラーメイド教育」を行います。



教員の指導とSULAのアドバイスを受けながら  
学生ひとりひとりが異なる学びを実践

千葉大学は留学者数

**539**名

(JASSO平成25年度調べ)

国立大学3年連続 **堂々第1位**

順位	学校名	派遣数
11	千葉大学	539人
12	京都大学	531人
17	北海道大学	500人
18	広島大学	475人



### 特色3 アクティブラーニング

千葉大学では、アカデミック・リンク・センターやイングリッシュ・ハウスなど、学生が主体的に学べる場所が用意されています。また、双方向型授業設備を積極的に導入するとともに、大学院生による学習支援制度も運用されており、大学全体として学生の主体的な学びをサポートする環境が整っています。これらを基盤として、国際教養学部においてはアクティブラーニングを積極的に展開していきます。



### 特色4 ソーシャルラーニング

フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなど、国際教養学部はグローバルな世界と地域の双方を舞台にした活動体験を重視し、「現場で学ぶ・現場を学ぶ」を学修理念の中心に据えています。このような学修を通して、理論だけでなく実体験を通じた知識の活用と課題解決能力を育成します。また、これらの活動体験は、事前学習・事後学習を通じて体系的な科目として構成され、体験によって得た学びを個々のものとしてとどめるのではなく、普遍的な課題として考えることのできる能力を育てていきます。

### 特色5 海外留学

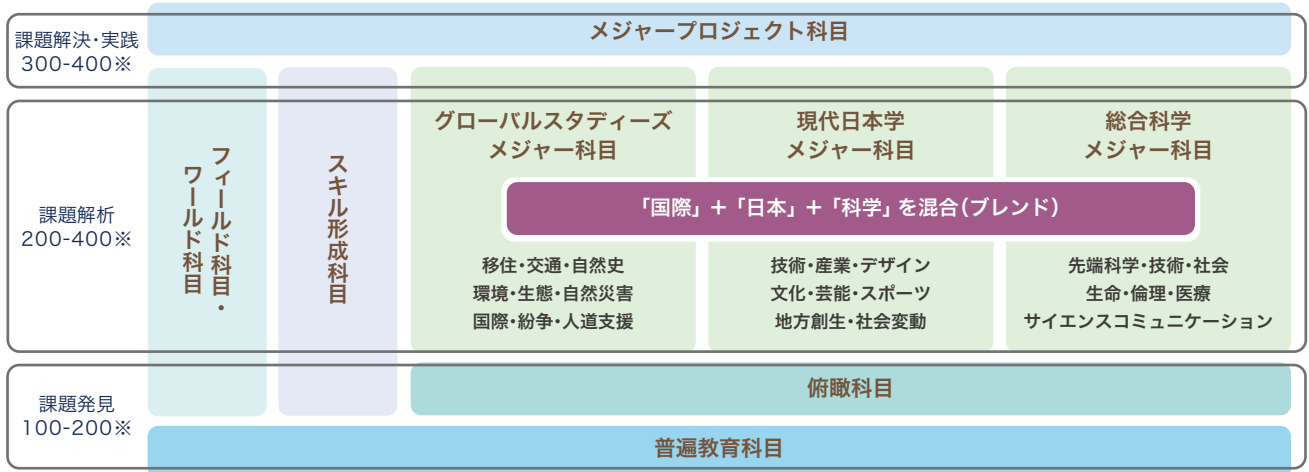
異文化との接触、国際的な学生間の協働を通じた国際理解と日本理解の育成を目的に、国際教養学部では卒業までに最低1回の留学を行うことを必須にしています(留学の時期や回数は課題解決の道筋に合わせて学生自ら決定)。千葉大学は、留学にも柔軟に対応可能な新たな学事暦として、ターム制(1年を6タームに分割)を平成28年度から導入します。このターム制を活用し、難易度・目的・期間別に体系的に整理された多様な留学プログラムを提供します。



# カリキュラム

国際教養学部では、世界を舞台にした文理混合の課題解決型教育を実践します。入学後、教員の指導とSULAのサポートを受けながら、以下の科目群の主体的な履修を通じて、課題の発見・分析・解決の能力および発信力を体系的に獲得していきます。

# Curriculum



※コース・ナンバリング・システム(平成27年度導入)によるナンバリングコードで、授業科目の難易度の目安を示す。

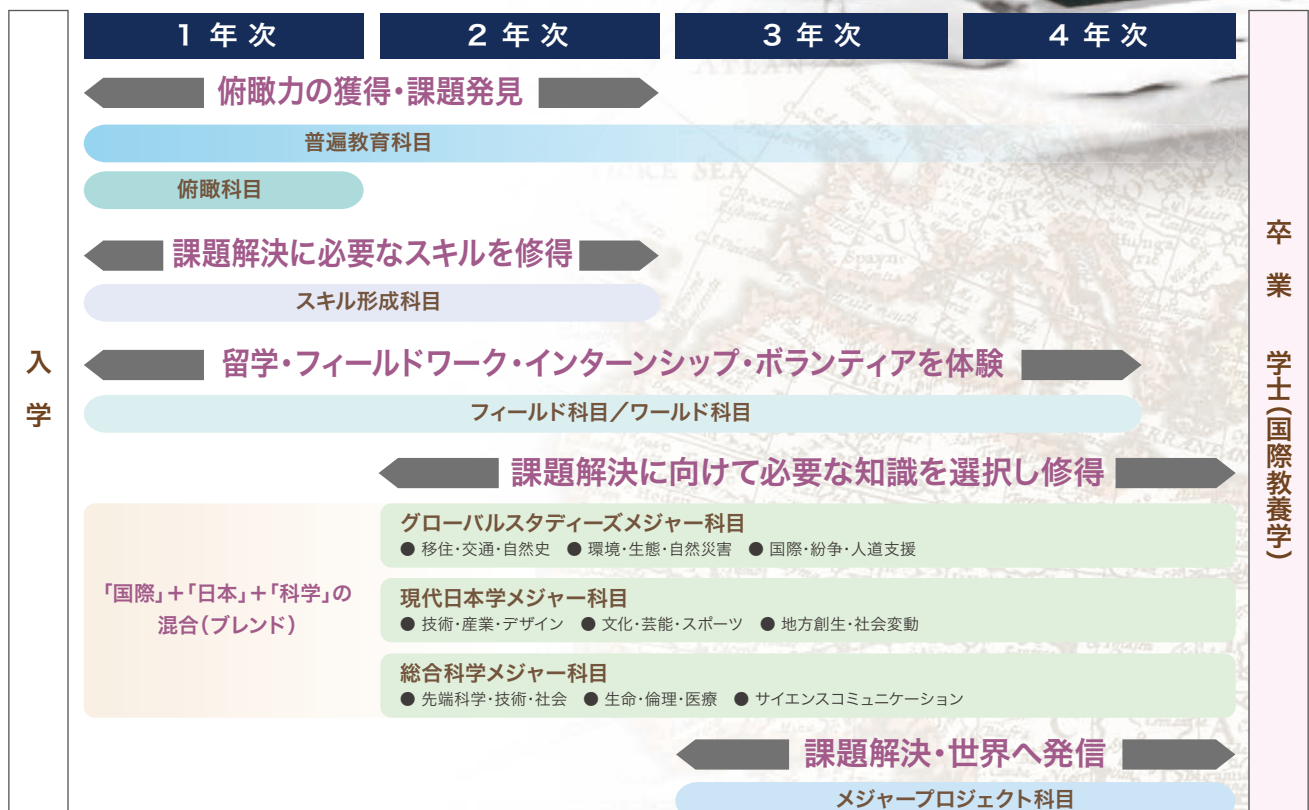
<b>普遍教育科目</b>	全学の共通教育科目であり、学問の基礎について広く学んでいきます。
<b>俯瞰科目</b> 全科目必修	人文社会科学・自然科学・生命科学の学問領域を混合し、分野を越えた俯瞰力を身に付けます。 国際教養入門/人文社会科学基礎/自然科学基礎/生命科学基礎/グローバルイシュー論/現代日本論/総合科学論/グローバルイシュー演習/現代日本課題演習/総合科学コミュニケーション演習
<b>スキル形成科目</b>	専門的な語学や研究手法など、課題解決能力や発信力の基礎となるスキルを修得します。 国際教養CALL英語/アカデミックライティング(日)/アカデミックライティング(英)/研究方法論/史資料分析/質的調査法/量的調査法/最新情報処理演習/プレゼンテーションメソッド/学術英語
<b>フィールド科目</b>	「現場で学ぶ、現場を学ぶ」をコンセプトとして、国内外における現場体験を通じ、課題発見・解決能力を身に付けます。 フィールド・スタディ/地域PBL型実習/持続的・地域貢献活動実習
<b>ワールド科目</b>	「世界で学ぶ、世界を学ぶ」をコンセプトとして、海外協定校等とのプログラムを通じ、課題発見・解決能力を身に付けます。 海外派遣プログラム
<b>グローバルスタディーズ メジャー科目</b>	グローバルな問題の背景と構造を理解し、その解決に必要な知識を修得します。 [移住/交通/自然史] 世界史と世界地理/民族と国民/移民論/近代世界システム論 等 [環境/生態/自然災害] 都市住環境論/地域環境論/生物多様性論/防災・減災社会構築論 等 [国際/紛争/人道支援] 国際組織論/国際関係と歴史認識/国際協力論/安全保障論 等
<b>現代日本学 メジャー科目</b>	日本の技術、文化、社会の課題を理解し、それをもとにグローバルな課題の分析につなげる知識を修得します。 [技術/産業/デザイン] 工業デザイン/製造業とサービス/コンテンツ産業とデザイン/メディアミックス 等 [文化/芸能/スポーツ] クールジャパン論/ポピュラーカルチャー論/日本の言語文化/地域社会とスポーツ振興 等 [地方創生/社会変動] 地方創生論/千葉学/比較社会学/人口減の社会論 等
<b>総合科学 メジャー科目</b>	諸科学の基礎を理解し、その中から解決すべき課題への新たなアプローチ方法の発見を目指します。 [先端科学/技術/社会] 経済政策と科学技術/映像表現技術/境界科学論/科学と社会的意思決定 等 [生命/倫理/医療] 生命倫理/バイオテクノロジーと法/医療と文化/スポーツ医科学 等 [サイエンスコミュニケーション] サイエンスコミュニケーション論/サイエンスカフェ/ミュージアム論/大衆の科学理解 等
<b>メジャー プロジェクト科目</b>	課題解決に向け、グループワーク・ディスカッションを重ねながら自らのプロジェクトを選択し、複数教員の指導のもと、卒業制作、卒業研究、卒業論文という形でプロジェクトを完成させます。 クロス・メジャー・プロジェクトワーク/メジャープロジェクト





千葉大学が、全国の日本語学校が留学生に勤めたい進学先として、「日本留学AWARDS」の入賞校に選出されました。

## 入学から卒業までの履修の流れ



## 教育課程における留意点

- 卒業までに124単位を修得します。合わせて、1回以上の海外留学が必須です。
- 3年次で1つのメジャーを選択しますが、選択したメジャー以外の科目も横断的に履修します。
- 授業科目のナンバリング・早期卒業制度・履修登録上限制度(CAP制)を導入します。
- 6ターム制(1年を6つの期間に分ける)により授業を実施します。
- 教育職員免許の取得はできません。

## 卒業後の進路 ～さまざまな場所で活躍できる人材づくり～

国際教養学部の目的はグローバル人材の育成にあります。卒業後の進路は海外だけを念頭に置いているわけではありません。地域の中にもグローバルな課題はありますし、この学部で身につく、課題を発見し解決していく能力は、どんな場所でも活かすことができるでしょう。具体的には、企業や自治体の国際部門、企画部門などが考えられます。また、工学デザインの演習も行うので、デザイン・シンキングを身につけ、IT系のデザイナー、エンターテインメントやアートのプロデューサーとしての活躍も期待できます。新設学部なので大学院はありませんが、学部でつけたテーマに沿った大学院に進んで専門性を深めれば、国際公務員やNGOの職員への道も開けるでしょう。

## 1 千葉大学の研究成果を実用化して起業

平成19年4月に、千葉大学大学院薬学研究院の五十嵐一衛教授の長年の研究成果を実用化するために、株式会社アミンファーマ研究所が設立されました。血液だけで脳梗塞のリスクが分かる『脳梗塞リスク評価』は全国200か所以上の医療機関で利用されており、年間約18,000人が利用するまでになりました。

## 2 起業後も大学と産学連携／共同研究を積極的に推進

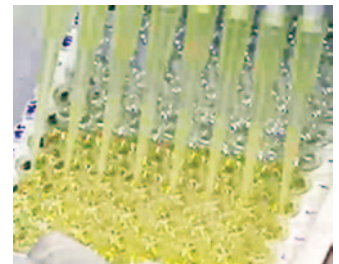
アミンファーマ研究所は、起業後も千葉大学と積極的に共同研究を推進し、国等の大型研究助成事業の獲得につながっています。血液だけでなく、尿での検査も可能とするべく、現在も産学連携研究を積極的に進めています。産学官連携の優れた取り組み事例であることが評価されて、第12回（平成26年度）産学官連携功労者表彰・経済産業大臣賞を受賞いたしました。



検査は血液のみ



血液からリスク値を分析



リスク結果の精度は約85%

血液検査で

脳梗塞のリスクがわかります

世界で初めての脳梗塞リスクマーカー

<http://www.amine-pharma.com>

お近くの医療機関で簡単受診！詳しくはHPをご覧ください



株式会社 アミンファーマ研究所

## 1 産学共同研究の成果を基に起業

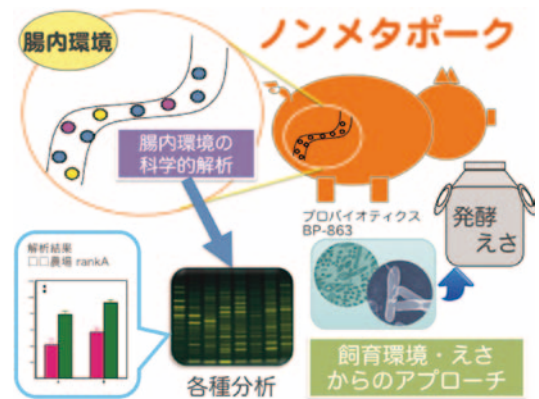
京葉プラントエンジニアリング株式会社、日環科学株式会社等と本学との好熱性微生物に関する産学共同研究の成果を実用化するため、平成25年1月に起業されました。動物飼料への事業化に成功し、『ノンメタポーク』ブランドの新しい豚肉開発に成功しました。現在ニューオータニや第一ホテルに採用・展開されて、事業規模を拡大中です。



新しい豚肉製品への展開

## 2 大学との共同研究を積極的に推進

動物飼料への事業化だけでなく、ヒトの健康へ寄与するべく、起業後も本学を含め多くの大学等と産学共同研究を推進しています。新規プロバイオティクスのヒトへの応用的研究は、日本経済新聞（千葉・首都圏経済版 2015年5月27日付）に掲載され注目されています。



新規プロバイオティクスの発見と飼料への応用



# ノンメタポーク Non-Meta Pork

千葉大学を中心とする「産学連携チーム」で開発した、  
おいしくてヘルシーな豚肉。

ムダな脂肪が少なく、さっぱり!!

一般豚よりビタミンB1が豊富☆

ノンメタポークの情報はこちらから



屋台拉麺 **へ**  
YATAIRAMEN ICHIZU  
一's 西千葉店にて  
ノンメタポークの  
コラボメニュー展開中!!

千葉大学発ベンチャー 株式会社サーマス

## 1 千葉大学の発明を産学共同研究により試作から製品化

救急患者を搬送後、バックボードに固定したままレントゲン撮影やCT撮影をしたり、異なるストレッチャーへ乗せかえる際には、いくつも接続した医療器具等やラインを取り外したり、一つずつ置き場所を変える等の作業が長時間必要となる実情があり、一刻を争う救急の課題となっていました。本学の松村洋助教(救急医)がこれを解決する発明を成し、その後、株式会社SISMと産学共同研究により試作開発から製品化に至りました。



バックボードツリーを装着したまま、CT・アンギオの使用が可能

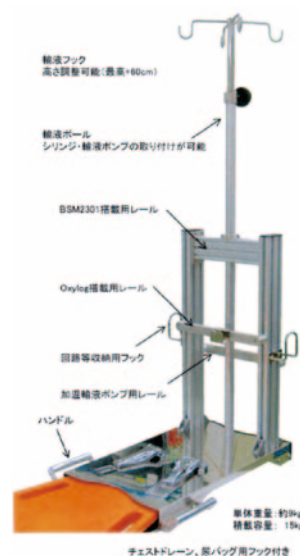
## 2 救急救命の現場で活躍する『バックボードツリー』

教員の発明(研究成果)を医療・看護機器のメーカーである株式会社SISMへ発展し、産学共同研究・開発を行った好例であり、2013年7月より本格的に販売を開始しました。

これまでに累計4台の販売実績があり、救急の現場からは『時間が短縮された』との評判を得ています。

### 【納品実績】

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・太田西ノ内病院様
- ・大阪市立大学医学部附属病院様
- ・明石市立市民病院様



バックボードツリー (機器搭載前の状態)



We Are Solution Provider

SISM

製造元  
株式会社 SISM

〒335-0031 埼玉県戸田市美女木 6-5-15  
 TEL 048-442-0248 FAX 048-442-4610  
 E-mail: info@sism.co.jp http://www.sism.co.jp

## 1 千葉大学のシーズを産学共同研究により 試作→製品化

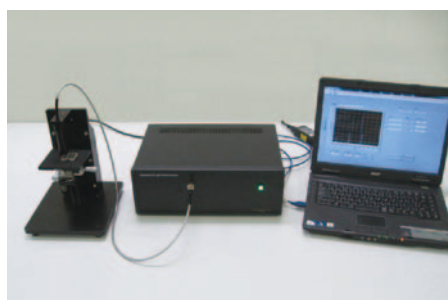
OCT (Optical Coherent Tomography) は眼科機器 (眼底検査) で利用が先行していますが、大型重量高性能高価格でした。これに対し、千葉大学大学院融合科学研究科情報科学専攻 椎名達雄 准教授は工業利用を目指し、小型軽量中性能低価格のOCTスキャナーを研究していました。日本イリセンはこれに着目し、2010年に基本技術の移転を受けた後、共同開発により試作、製品化を進め、2011年に厚さ測定センサーWLI 1000 (WLI: Wide-band-IR Light Interferometer) の発売を開始しました。

## 2 その後も改良が続く「光干渉センサーWLI」

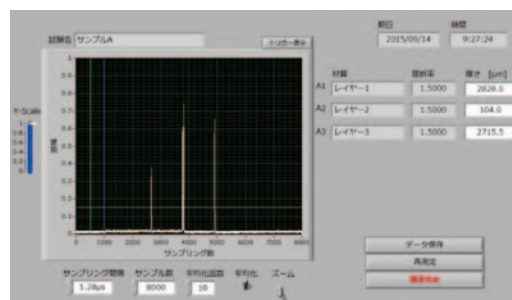
“厚さ測定センサー WLI”は、実用的な工業用途センサーとして、ガラスや樹脂のオプティカル部品その他、塗装膜や食品、医療など幅広い分野での膜厚、板厚計測などに使われ始めています。日本イリセンは、その後も改良を進め、現在、薄膜から厚板まで高精度で大きな計測レンジを持ち、待ち望まれていたUSB対応のWLI2000シリーズの販売を開始しています。



測定例



WLI2000BS/BEのシステム構成。  
左端がレンズ系を含む測定部である。



3層厚さ測定画面

### 光学測定機器なら日本イリセン

- OCT厚さセンサー (千葉大との共同開発品)
  - 光干渉式薄膜モニター
  - 光路長調整器
- その他開発請負

日本イリセン株式会社 代表取締役 小保方 準  
〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町1-3-1 イセビル3F  
TEL & FAX : 045-251-7334 URL : <http://www.ylsj.co.jp>

## 1

## 学生への奨学金の支援

研究機関における人材の育成強化



## 2

## 学生の生活環境の整備

SEEDS 基金による総合学生支援センターの整備

学生が卒業生・学生支援団体・地域の方々等との多くの出会いを通じて、学生自身の自主自立の精神及びコミュニケーション力を高め、これからの社会が要請する総合人間力を磨く新たな手法として期待される“アクティブ・ラーニング”。この“アクティブ・ラーニング”機能を集約したアクティブ・ラーニング・ゾーンをはじめ、総合学生支援ゾーン及びコミュニケーションゾーンを集結させた総合学生支援センターがSEEDS基金の助成により平成24年に整備されています。



## 3

## 国際交流事業の推進

世界へと研究視野を広げるために

若手教員・研究者の共同研究等派遣支援プログラム（渡航費助成）



千葉大学生の“夢”を実現するために

**学生生活を充実させるためにさらなるご支援をお願いします。**

体育施設の改修は、体育の授業の質の向上や、体育会およびサークルの競技力のアップが期待できます。世界基準の公認陸上競技場では、一流アスリートとの交流、国際的な競技イベントの開催が可能になり、学問とスポーツの相乗効果により、多様性に富んだ高度な大学教育への展開を目指すことができます。さらに、学問とアスリートの両立を目指す高校生の進学も期待され、ひいては世界レベルの選手の輩出という夢にも広がります。

室内プールは通年で使用できることにより、学生のアクティブライフのサポートができるとともに、超高齢化社会に対する研究開発も期待できます。また、これら体育施設の質の向上は、医療との協働を可能にし、地域住民へ開放することにより、地域全体の健康増進に寄与することができます。



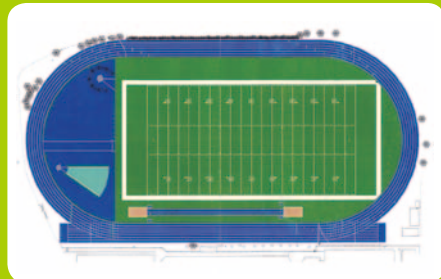
トラックの老朽化が激しい陸上競技場



老朽化が激しく夏しか使えない屋外プール

**体育2施設のリニューアル！**

**合計8億5千万円必要です！**



世界水準の公認陸上競技場  
アメリカンフットボール場 **6億円**



室内公認25mプール **2億5千万円**

次世代の種～ SEEDSのためのテクノロジーとイノベーションを育てる

## 千葉大学SEEDS基金

ご支援・ご協力をお願い  
チャレンジを支え、人を育てる基金です。

千葉大学SEEDS基金の主な使途は、学生生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などです。

学生、若手研究者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。

学生の希望により購入された書籍

ホームページから寄付の申し込みの手続きができます。  
詳しくは <http://kikin.chiba-u.ac.jp/>

**次世代につなぐイノベーションとテクノロジーのために**



**未来の種を蒔く**

- 千葉大学SEEDS基金  
SEEDS = 無限の生命力を象徴する種子
- 創設・概要  
千葉大学は、平成18年にSEEDS基金を創設し、多くの皆様からご協力いただき、平成23年度より事業を開始しました。寄せられた寄附金は、大切に運用しながら、本学の教育研究活動等に活用しています。

週刊ダイヤモンド（2013年10月26日号）「頼れる病院ランキング」で千葉大学医学部附属病院が**全国2位**に選ばれました。

## 1 改修部分が完成し、外来診療棟がフルオープン

「患者さんにできるだけ前向きな気持ちで受診していただきたい」との思いを込めて2014年7月に新築した外来診療棟が、隣接する旧棟の改修工事を終えて2015年7月にフルオープンしました。「患者支援センター」の充実や検査部門（採血・採尿・生理検査）の集約などにより、機能的で患者さんにやさしい外来診療を実現しています。



明るく、開放感のあるホスピタルストリート。機能性とアメニティの向上により快適な診療空間を提供している



患者支援センターでは、患者さんが入院前から退院後まで継続した診療・ケアが受けられるようサポートを充実

## 2 合併症の予防・管理をワンストップで行う「糖尿病コンプリケーションセンター」

わが国の糖尿病患者数は900万人を超え、50歳以上の4人に一人が糖尿病に罹患しています。当センターでは「高度なチーム医療の実現」を基本コンセプトに、糖尿病・代謝・内分泌内科を中心として、眼科、腎臓内科、神経内科などの関連診療科と医師、看護師、管理栄養士、薬剤師などの多職種の連携により、糖尿病合併症の予防・管理までをサポートしています。



医師と専門の資格を持つ看護師の連携によるフットケア外来

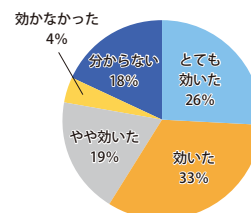


### 3 スギ花粉症の最新治療「舌下免疫療法」で8割が改善

国民の25%が悩まされているといわれるスギ花粉症。治療には、症状を軽減させる「対症療法」と、体質を変えて治す「免疫療法」があります。当院では、2014年10月より保険適用された「舌下免疫療法」を行う専門外来を設置。アンケートを行ったところ、患者さんの8割に改善が見られました。最低2年は治療を続けなければなりません。花粉症を根治する可能性も期待できるため、受験や妊娠など将来のことを考えて治療を始める方もいます。[アレルギー免疫療法外来（要予約）：月・水・金曜日]



1日1回自宅でスギ花粉エキスを舌の裏に垂らすだけ。注射のように痛みがなく、副作用も少ない。



102人の患者さんの8割が、舌下免疫療法を受けて効果を感じたと回答（26年10月～27年1月）

### 4 チーム医療で取り組む「がん診療」

日本人の2人に1人が「がん」になる時代。治療を受けながら働く人は32万5千人に上ります。当院では日常生活を続けながらがん治療などができる「通院治療室」を設置。専門医師、専門・認定看護師、専門薬剤師らが連携して年間1万4千件の治療にあたっています。専門相談員による「がん相談支援センター」や不安や悩みを共有する「がんサロン」などでサポートも行っています。



豊かな緑が窓の外に広がる通院治療室（50床）

### 5 「国際医療センター」を設置し医療のグローバル化を推進

2014年10月に設置した国際医療センターでは、海外からの受診支援、外国人医師・研究者の受け入れ、海外医療機関への職員派遣などを行い、世界水準での医療のグローバル化を進めています。これまでに、ロシア国民経済行政学アカデミーやインドネシア大学などが視察に訪れました。



東洋医学を取り入れた和漢診療科を紹介

### 6 特別室ではアメニティを重視し、質の高いケアを提供しています

プライベートな空間での療養を希望される方のために、セキュリティーへの配慮や設備の充実、快適な療養環境を備えた個室（特別室）をご用意しています。



東京湾の夜景が見える特別室

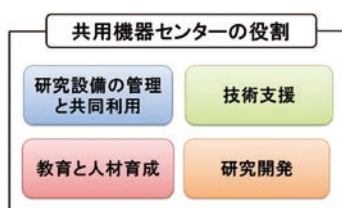


控室のある3ルームタイプ（特別室S）

## 1 共用機器センターとは？

大型分析機器の集中管理などを行う共同教育研究施設です。学内外に向けた研究設備の管理と共同利用を行う他、設備を有効利用する

ための教育と人材育成や技術支援、分析に関する研究開発を行っています。



## 2 研究設備の管理と共同利用

共用機器センターでは、主に化学系大型分析機器の共同利用を行っており、学内だけでなく学外からの学術利用（大学等）や一般利用（企業等）を一定の利用料金で受け付けています。利用者自身が実験を行う「利用者測定」の他、一部の機器では、担当スタッフによる「依頼測定」を受け付けています。

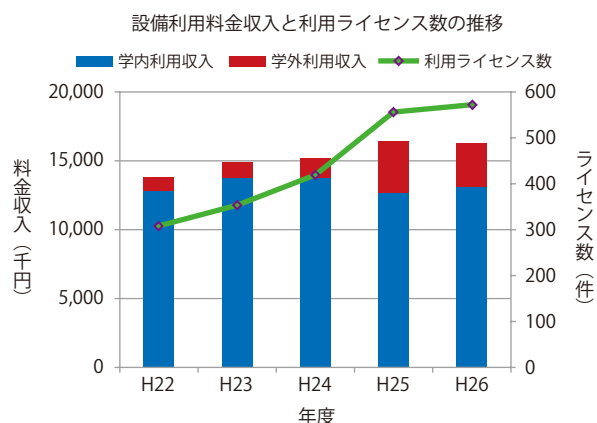
共用機器センターは、分子科学研究所が主管する「大学連携研究設備ネットワーク」に参加しており、Web上で機器の予約や課金状況の確認ができます。同ネットワークは大学だけでなく一般企業も参加可能です。



## 3 共同利用の実績

学外利用の受け入れにより、利用者数や利用料金収入（設備の維持費等に活用）が増加し、設備の有効利用が促進されています。

なお、年間約20の企業・団体が共用機器を利用しています。

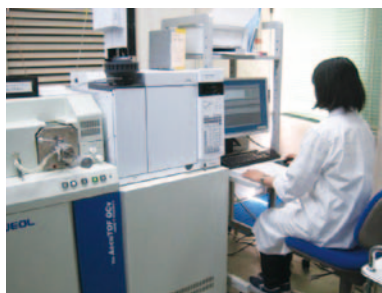


## 学外利用可能な共用機器（2015年8月）

管理部門	機器名（*は学術利用に限定）	用途
共用機器センター	核磁気共鳴装置（6台）	核磁気共鳴現象（NMR）の観測による、分子の構造解析や分子挙動の観測など。
	質量分析装置（3台）	試料の質量（分子量）の観測による、構造解析や微量物質の検出など。
	単結晶／粉末X線回折装置（3台）	X線の回折像を測定することによる、単結晶の構造解析や化合物の同定、構造変化の観測など。
	元素分析装置（2台）	試料中の炭素、水素、窒素などの組成比を測定することによる、有機化合物の構造決定や純度決定など。
	電界放射型透過電子顕微鏡	薄層試料を透過した電子の干渉像を検出することによる、極微小領域（オングストロームサイズ）の観察。
	走査型電子顕微鏡	試料表面に電子ビームを照射し、二次電子等を検出することによる、微小領域（マイクロメートルサイズ）の観察。
	顕微分光光度計	微小領域で紫外～近赤外光の吸収スペクトルを測定することによる、不均一試料の同定や物性評価など。
	蛍光寿命測定装置*	パルス光照射後の蛍光強度の時間変化（減衰）を観測することによる、蛍光性試料の特性評価など。
	発光量子収率測定装置*	発光量子収率（吸収された光子のうち発光として放出される光子の割合）の測定による、発光材料の性能評価など。
	ゼータ電位・粒径測定装置	コロイド粒子の粒径やゼータ電位測定による、試料（ナノ粒子または固体表面）の物性評価など。
	フーリエ変換赤外分光光度計	赤外線吸収スペクトルの測定による、有機化合物の同定や構造解析など。
紫外可視近赤外分光光度計	紫外～近赤外領域の吸収スペクトルの測定による、化合物の同定や光物性の評価など。	
理学研究科	電子スピン共鳴装置	電子スピン共鳴現象（ESR）の観測による、常磁性反応中間体の追跡や半導体の物性評価など。



核磁気共鳴装置



質量分析装置



電界放射型透過電子顕微鏡



X線回折装置

## 4 共同研究等

センターのスタッフとの共同研究や奨学寄附金も多数受け入れています。

一般企業等からの共同研究および奨学寄附金の受け入れ（平成24～26年度）

年度	機 関	種別	研究題目	主な利用機器	金額(千円)
H24	ソニー株式会社 先端マテリアル研究所	共同	有機化合物の組成分析・高 感度不純物分析技術の研究	質量分析装置	1,050
	第一稀元素化学工業株式会社 (平成25年度まで延長)	共同	炭酸ジルコニウムアンモニ ウムの構造解析	核磁気共鳴装置	500
	㈱日鐵テクノリサーチ 解析事業部	寄附	研究助成	核磁気共鳴装置	480
H25	ソニー株式会社 先端マテリアル研究所	共同	有機化合物の組成分析・高 感度不純物分析技術の研究	質量分析装置	1,050
	日本香料工業会	寄附	研究助成	X線回折装置	30
H26	日鉄住金テクノロジー株式会社 解析ソリューション部	寄附	研究助成	核磁気共鳴装置	240

## 5 教育と人材育成

学内外の設備利用者向けに、担当スタッフや学内外の専門家による技術講習会やセミナーを行っています。またセンターの機器によって得られた研究成果の報告会なども開催しています。



## 6 利用希望のお問い合わせ先

千葉大学 共用機器センター

TEL : 043-290-3810 E-mail : cai-network@chiba-u.jp

URL : <http://www.cac.chiba-u.ac.jp/>

利用料金については、機器の種類、利用形態、利用時間、件数、オプション使用の有無などにより異なります。

詳しくは共用機器センターにお問い合わせ下さい。

# ファイナンシャルハイライト (平成26事業年度)



理事（総務担当・事務局長）  
猿 渡 政 範

千葉大学は、平成16年度の法人化以降、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指し、創造的な教育・研究活動を実践してまいりました。

一方で、平成28年度からの第3期中期目標期間に向けて、国により運営費交付金の配分方法の見直しが検討され、「機能強化の方向性に応じた重点支援」として3つの枠組みが示されました。このうち、千葉大学は、「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を機能強化の中核とする国立大学」として枠組みを選択し、世界水準の教育研究を目指してまいります。このような厳しい競争環境下において、安定的な大学運営を行うためには、更なる外部資金の獲得により、財務基盤の充実に努めていくことが必要です。これらの状況をふまえ、財務データをはじめとする大学情報の公表の重要性は一層高まっており、本学としても積極的な情報発信に取り組んでいるところです。

今回、お届けいたします「CHIBA UNIVERSITY FINANCIAL REPORT 2015」は、財務状況および最新のトピックスに加え、共同研究などの産学連携にかかる取組みについても記載し、身近で分かりやすい報告書となるよう心がけ作成いたしました。

本レポートを通じて、本学の活動状況をご理解いただき、皆様方からのますますのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(単位：百万円)

	H25	H26	増減 (前年度比)
資 産	234,705	233,003	△1,702
負 債	66,354	62,867	△3,487
純 資 産	168,351	170,136	1,785
費 用	63,162	67,886	4,724
収 益	63,669	66,964	3,295
運営費交付金収益	15,748	17,402	1,654
学生納付金収益	8,267	8,222	△45
附属病院収益	29,904	29,903	△1
寄附金収益	1,414	1,374	△40
受託研究等収益	1,942	2,508	566
受託研究収益	1,436	1,972	536
共同研究収益	506	536	30
その他の収益	6,395	7,555	1,160
当期総利益 (損失)	507	△922	△1,429

注) 本レポートでは、単位未満を四捨五入しているため、計・差引が一致しない場合があります。  
詳細については、後の「平成26事業年度決算のポイント」を参照ください。

## 1. 貸借対照表の概要

- 園芸学部の敷地の一部を売却したことにより土地が減少しています。(※1)
- 外来診療棟、総合研究棟（工学系）など建物等の工事・改修を行った一方で、既存の建物・備品等の老朽化に伴う減価償却が進行しています。(※2)
- 外来診療棟、総合研究棟（工学系）の竣工に伴い建設仮勘定が減少しています。(※3)
- 資金運用の減少により有価証券が減少しています。(※4)
- 病院の再開発に伴う長期借入金が増加しています。(※5)
- 3月期における固定資産取得の減少等により未払金が増加しています。(※6)

(単位：億円)

資産の部			負債の部		
固定資産			資産見返負債	179	(182)
土地 ※1	1,303	(1,305)	借入金 ※5	231	(210)
建物等 ※2	612	(484)	長期未払金	26	(28)
備品 ※2	130	(131)	寄附金債務	32	(33)
図書	54	(54)	未払金 ※6	127	(164)
建設仮勘定 ※3	7	(80)	その他	34	(46)
投資有価証券	15	(16)	負債合計	629	(664)
その他	6	(6)			
流動資産			純資産の部		
現金及び預金	48	(30)	資本金	1,508	(1,509)
未収入金	74	(70)	資本剰余金	121	(85)
有価証券 ※4	77	(165)	利益剰余金	81	(84)
棚卸資産	4	(5)	当期末処分利益(損失)	△9	(5)
その他	1	(3)	純資産合計	1,701	(1,684)
資産合計	2,330	(2,347)	負債・純資産合計	2,330	(2,347)

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

( ) は平成25事業年度

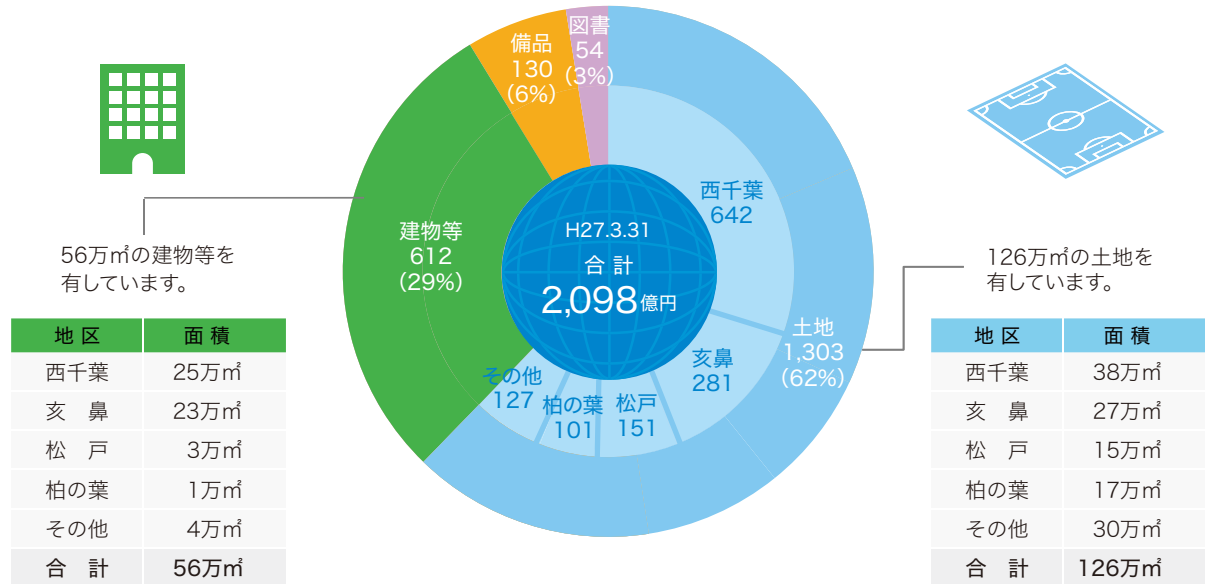


外来診療棟

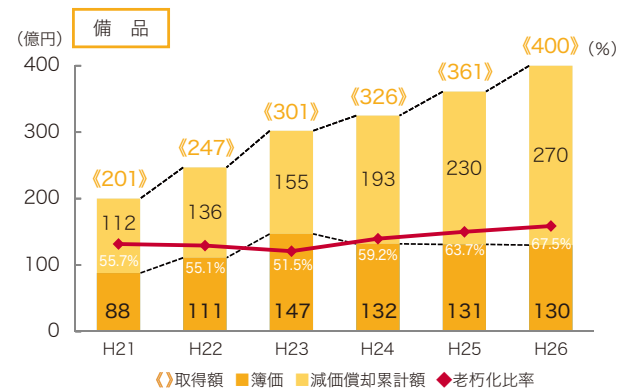
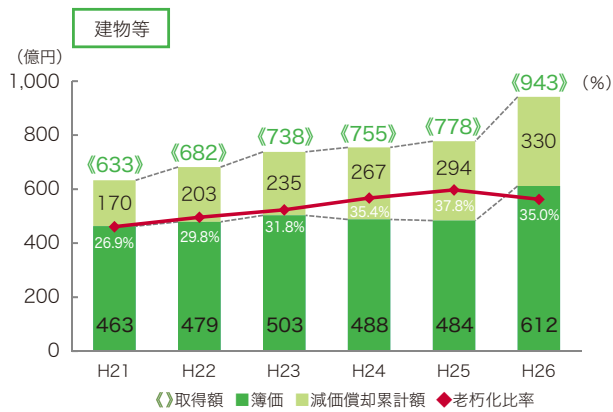


総合研究棟（工学系）

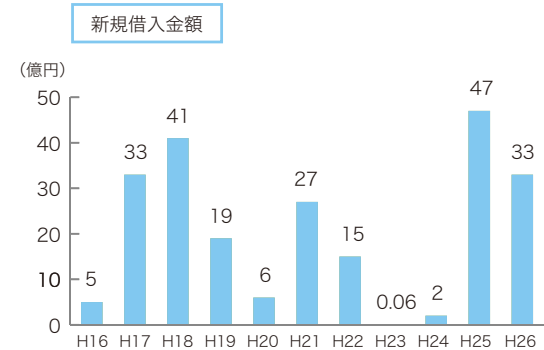
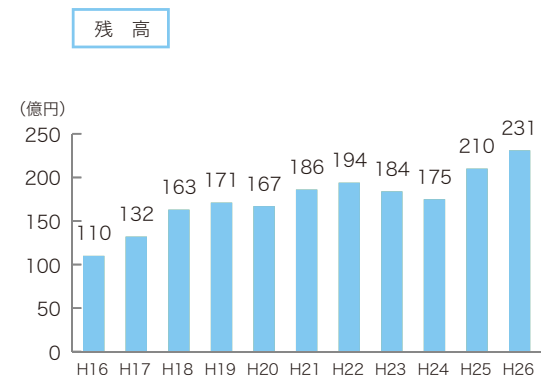
## 主要な有形固定資産の内訳



## 施設等取得額・老朽化比率の年度別推移



## 借入金の年度別推移



2. 損益計算書の概要

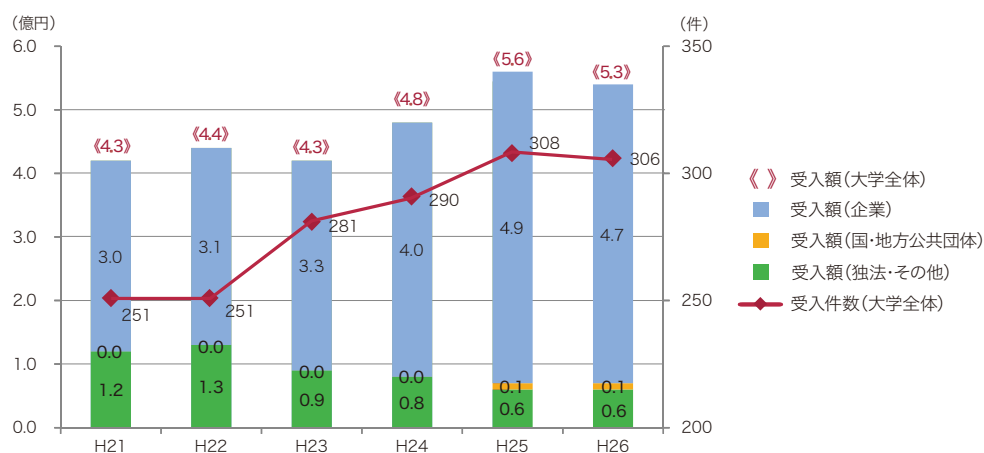
- 診療経費は、新外来棟開院に伴う建物の減価償却費、設備費及び移転費等の増加や消費税増税等により増加しています。(※1)
- 人件費は、臨時特例法に基づく給与減額措置の終了による増加や、外部資金等による雇用の増加により増えています。(※2)
- 運営費交付金収益は、復興関連事業などの前年度より繰越した特別経費等の執行による増加や上記給与減額措置の終了による期間進行基準の増加により増えています。(※3)
- 受託研究受入額の増加により外部資金が増加しています。(※4)

(単位：億円)

経常費用			経常収益		
教育研究経費等	119	(108)	運営費交付金収益 ※3	174	(157)
診療経費 ※1	210	(195)	学生納付金収益	82	(83)
人件費 ※2	326	(304)	附属病院収益	299	(299)
一般管理費	14	(13)	外部資金 ※4	52	(44)
その他	3	(4)	機関補助金	25	(22)
			その他	28	(25)
<b>経常費用合計</b>	<b>672</b>	<b>(623)</b>	<b>経常収益合計</b>	<b>661</b>	<b>(630)</b>
臨時損失	6	(9)	臨時利益	1	(6.5)
<b>当期総利益(損失)</b>	<b>△9</b>	<b>(5)</b>	目的積立金取崩等	8	(0.5)
<b>計</b>	<b>670</b>	<b>(637)</b>	<b>計</b>	<b>670</b>	<b>(637)</b>

( ) は平成25事業年度

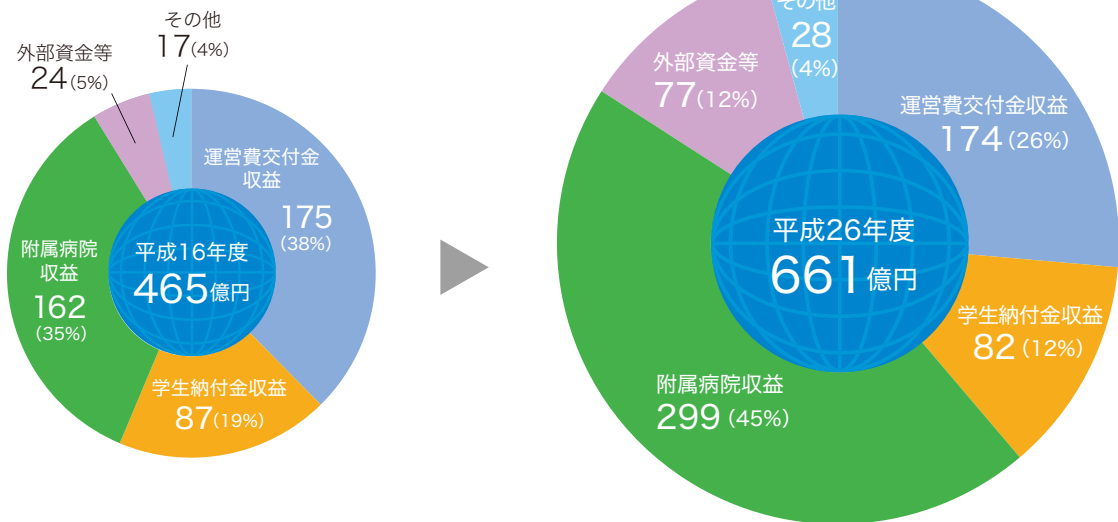
【参考】共同研究受入状況の推移



- 千葉大学では産学連携を積極的に推進しており、共同研究の受入件数は平成21年度に比べて55件増加しています。

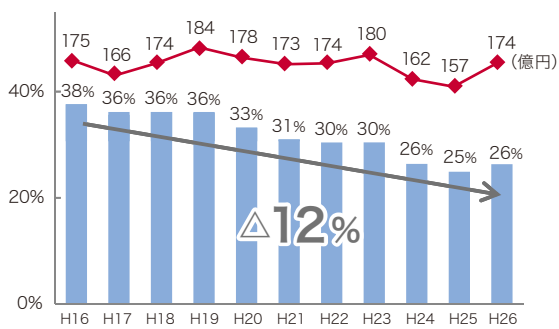


## 主要な経常収益(シェア)の推移

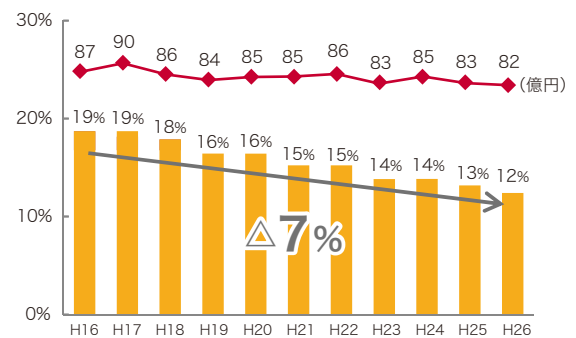


平成16年度(国立大学法人化の初年度)と比べ、経常収益合計に占める運営費交付金収益のシェアが減少しています。その一方で、附属病院収益・外部資金等のシェアが増加しています。

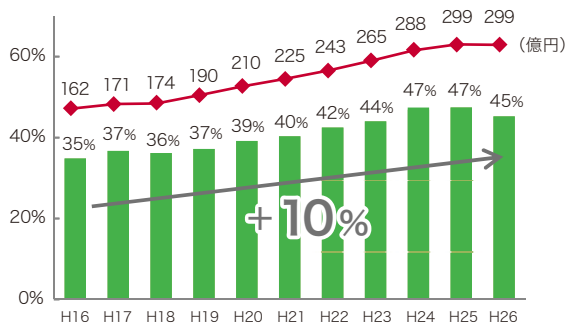
運営費交付金収益



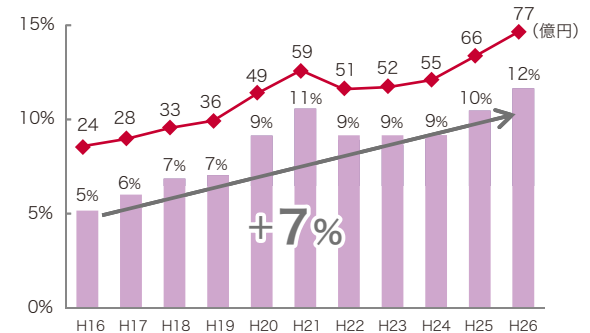
学生納付金収益



附属病院収益



外部資金等



## 3. 財務諸表等の計数推移

## 貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	差引 H26-H25
<b>資産の部</b>							
固定資産	178,418	198,012	202,815	200,626	207,470	212,615	5,145
有形固定資産	178,096	196,869	201,420	198,968	205,452	210,678	5,226
土地	130,463	130,463	130,463	130,452	130,452	130,279	△173
土地	130,463	130,463	130,463	130,463	130,463	130,290	△173
減損損失累計額	-	-	-	△11	△11	△11	-
建物	36,051	45,755	47,912	46,524	45,907	58,308	12,401
建物	39,111	64,789	69,989	71,574	73,503	89,260	15,757
減価償却累計額	△3,059	△19,033	△22,077	△25,050	△27,596	△30,952	△3,356
構築物	1,531	2,134	2,368	2,273	2,503	2,924	421
構築物	1,830	3,363	3,801	3,904	4,341	4,998	657
減価償却累計額	△299	△1,228	△1,433	△1,631	△1,837	△2,074	△237
工具器具備品	3,867	11,133	14,653	13,219	13,073	12,974	△99
工具器具備品	6,263	24,740	30,135	32,556	36,106	39,966	3,860
減価償却累計額	△2,396	△13,607	△15,481	△19,337	△23,033	△26,992	△3,959
図書	5,397	5,367	5,364	5,358	5,367	5,389	22
建設仮勘定	649	1,873	518	994	7,996	655	△7,341
その他の有形固定資産	137	145	142	147	154	150	△4
無形固定資産	139	231	250	266	331	354	23
投資その他の資産	183	911	1,145	1,392	1,688	1,582	△106
流動資産	11,275	20,035	19,420	21,683	27,235	20,388	△6,847
現金及び預金	8,036	4,701	2,793	2,595	2,980	4,761	1,781
未収学生納付金収入	81	87	102	84	80	80	0
未収附属病院収入	2,726	4,196	5,056	5,268	5,244	5,495	251
未収附属病院収入	3,004	4,295	5,127	5,343	5,338	5,617	279
徴収不能引当金	△278	△99	△70	△75	△94	△122	△28
その他の未収入金	24	1,849	226	337	1,680	1,794	114
その他の流動資産	408	9,202	11,242	13,400	17,250	8,258	△8,992
資産合計	189,692	218,046	222,235	222,309	234,705	233,003	△1,702
<b>負債の部</b>							
固定負債	24,850	37,933	38,623	36,252	41,861	43,360	1,499
資産見返負債	8,033	14,998	13,950	13,997	18,204	17,853	△351
長期寄附金債務	182	187	191	15	23	32	9
財務・経営C債務負担金	9,436	4,257	3,660	3,097	2,571	2,066	△505
長期借入金	7,196	14,117	13,606	13,274	17,307	19,846	2,539
引当金	3	168	214	255	339	371	32
退職給付引当金	3	168	214	255	270	303	33
その他引当金	-	-	-	-	68	68	0
その他の固定負債	-	4,207	7,000	5,613	3,417	3,192	△225
流動負債	13,511	16,300	15,990	18,536	24,493	19,507	△4,986
運営費交付金債務	238	174	36	498	1,198	106	△1,092
寄附金債務	1,992	3,089	3,185	3,448	3,279	3,174	△105
一年以内返済予定財務・経営C債務負担金	1,053	669	596	563	527	504	△23
一年以内返済予定長期借入金	3,349	336	517	574	645	724	79
未払金	5,167	9,792	9,200	10,391	16,276	12,602	△3,674
その他の流動負債	1,712	2,240	2,455	3,061	2,568	2,398	△170
負債合計	38,362	54,234	54,613	54,788	66,354	62,867	△3,487
<b>純資産の部</b>							
資本金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	150,821	△86
政府出資金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	150,821	△86
資本剰余金	△609	6,049	8,925	8,155	8,545	12,131	3,586
利益剰余金	1,033	6,857	7,791	8,459	8,899	7,185	△1,714
純資産合計	151,331	163,813	167,622	167,521	168,351	170,136	1,785
負債純資産合計	189,692	218,046	222,235	222,309	234,705	233,003	△1,702

## 損益計算書

(単位：百万円)

区 分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	差引 H26-H25
経常費用 (A)	45,892	54,693	58,782	60,327	62,260	67,247	4,987
業務費	44,157	53,083	57,153	58,756	60,644	65,475	4,831
教育経費	1,636	2,148	2,553	2,884	3,435	3,411	△24
研究経費	3,093	3,676	4,119	4,380	4,368	4,727	359
診療経費	11,373	15,801	17,500	18,627	19,451	20,991	1,540
教育研究支援経費	503	892	899	906	979	1,136	157
受託研究 (事業) 費	1,140	1,944	1,961	1,826	2,021	2,649	628
人件費	26,413	28,623	30,121	30,133	30,389	32,561	2,172
一般管理費	1,345	1,207	1,233	1,196	1,264	1,426	162
財務費用	390	399	394	367	346	343	△3
雑損	-	3	3	7	7	3	△4
経常収益 (B)	46,524	57,236	60,244	61,409	62,953	66,103	3,150
運営費交付金収益	17,490	17,434	17,957	16,244	15,748	17,402	1,654
学生納付金収益	8,741	8,628	8,323	8,542	8,267	8,222	△45
附属病院収益	16,159	24,263	26,529	28,772	29,904	29,903	△1
寄附金収益	1,094	1,023	1,138	1,287	1,414	1,374	△40
受託研究等収益	1,127	1,745	1,727	1,658	1,942	2,508	566
受託研究収益	750	1,291	1,288	1,205	1,436	1,972	536
共同研究収益	378	454	439	453	506	536	30
その他の収益	1,913	4,143	4,570	4,906	5,679	6,694	1,015
経常利益 (損失) (B-A)	632	2,543	1,462	1,083	693	△1,144	△1,837
臨時損益 (C)	401	△480	△166	△123	△239	△536	△297
前中期目標期間繰越積立金取崩額 (D)	-	15	65	7	-	-	-
目的積立金取崩額 (E)	-	-	-	39	53	759	706
当期総利益 (損失) (B-A+C+D+E)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	△1,429

## 利益の処分に関する書類

(単位：百万円)

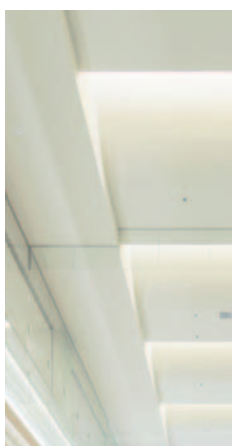
区 分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	差引 H26-H25
当期末処分利益 (当期末処理損失)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	△1,429
当期総利益 (損失)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	△1,429
利益処分額 (損失処理額)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	△1,429
積立金	-	26	1,361	763	507	△922	△1,429
目的積立金	1,033	2,052	-	243	-	-	-

## (参考) 決算報告書

(単位：百万円)

区 分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	差引 H26-H25
収入	46,434	61,734	62,605	62,806	73,704	74,996	1,292
運営費交付金収入	18,207	17,853	18,447	17,104	18,243	18,669	426
補助金等収入	-	3,184	1,490	2,011	3,442	4,310	868
学生納付金収入	8,082	8,514	8,323	8,262	7,263	8,089	826
附属病院収入	16,159	23,820	25,584	28,434	29,853	29,597	△256
その他収入	3,986	8,363	8,761	6,996	14,903	14,331	△572
支出	46,183	59,107	62,173	61,563	73,250	75,489	2,239
教育研究経費	20,484	22,757	24,321	23,027	23,074	25,137	2,063
診療経費	14,598	24,447	27,418	29,480	31,187	32,467	1,280
一般管理費	5,806	-	-	-	-	-	-
その他支出	5,295	11,903	10,434	9,055	18,989	17,885	△1,104
収入-支出	251	2,627	432	1,244	454	△493	△947

決算報告書は、財務諸表とは別途に、現金主義を基礎とする国の会計に準じて作成する書類である。



# CHIBA UNIVERSITY

## FINANCIAL REPORT 2015

平成26事業年度

平成26年4月1日～平成27年3月31日

発行：国立大学法人 千葉大学財務部

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL：043-290-2053 FAX：043-290-2049

MAIL：cak2053@office.chiba-u.jp



CHIBA  
UNIVERSITY

千葉大学コミュニケーションマーク

千葉大学の頭文字Cと地球をモチーフにし、世界に飛躍する大学であることを表現したコミュニケーションマークは、平成25年に本学関係者への公募により制定されました。

使用されている赤は伝統を引き継いだ大学カラーを使用し、そこに地球や空をイメージするスカイブルーを入れて、グローバルなイメージとなっており、9つの赤い部分は、現在の9学部を表しています。